



# ふれあい西本郷小

令和 2 年度  
11 月号

横浜市立西本郷小学校 学校だより

令和2年10月30日(金)

一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子  
キャッチフレーズ:あいさついっぱい みんながえがお 西本小

## 運動会に感動

校長 佐久間 宣朝

空の高さを感じる秋晴れの季節となりました。子どもたちも、元気に毎日を過ごしています。

10月24日も素晴らしい青空の下、運動会を開催することができました。2か月の休校でスタートした今年度。運動会の開催も危ぶまれておりましたが、感染拡大予防の取組を様々に工夫し、実施することができました。当日の内容は演技と徒競走に絞り、開閉会式も座席に着席して、人との距離をとるようにしました。授業参観が実施できない状態でしたので、保護者、ご家族の皆様のご来校に制限をかけずになるべく多くの方に見ていただきたいと考え、低・中・高学年の順の入れ替え制にさせていただきました。こうした中での実施でしたが、子どもたちは元気いっぱいに演技、徒競走を頑張ることができました。

1年生は蛍光カラーの軍手をつけて、かわいらしく元気に踊りました。練習はしっかりと並ぶところからのスタートでしたが、本番では自分の思い思いのポーズで決めることができました。大きな成長を感じるダンスとなりました。2年生は日ごとにダンスが上手になり、リストバンドの鮮やかなカラーを誇らしげに踊りました。本番では膝や腰でしっかりとリズムをとり、楽しんでいるようにノリノリとなった姿が印象的でした。3年生は4色の旗音が秋空に映える演技でした。旗の音は練習を重ねるたびに堂々として、短くそろっていきました。それだけ動きが大きくなり、そろってきたことがわかりました。座席に戻っても旗の演技が続いていました。4年生は今子どもたちに大人気のアニメ「鬼滅の刃」の音楽に乗り、太鼓のばちをもって演技をしました。テーマは「呼吸を感じて」です。子どもたちも「全集中」の呼吸となり、ばちさばきもそろい、堂々と踊りました。また、「縄跳びダンス」もあり、子どもたちが嬉しそうだったことも出来栄を輝かせました。5・6年生は貫禄の「ソーラン節」の演技です。練習のスタートは6年生が5年生に踊りを教えることから始まりました。ある時、リードする人が説明をし、聞いていた全員が立って踊ろうとした時です。ゆっくりと立ち上がったみんなに「時間がない中しっかりと踊りを教えたいので、素早く立ってください。」とリードしている6年生が言いました。すると5年生もしっかりと返事をし、その気持ちを受け止めるように素早い動きとなりました。伝えようとする6年生と、それをしっかり学ぼうとする5年生の気持ちが強い絆で結ばれた瞬間だと感じました。気持ちの入ったソーランの動きと、自分たちで考えた動作と決めのポーズが見事に調和していました。全学年の徒競走ではみんな一生懸命に走り、1年前より遅くなった姿を見せてくれました。終了して退場するときも学年で趣向を凝らし、踊りながらの退場だったり、担任とユーモラスな掛け合いをしたりと様々な工夫にあふれていました。また、当日の運動場に輝いていたのは、金と銀のくす玉です。これは「運動会にくす玉がないのは寂しい。」と6年生が用意してくれたものです。そして「どうせ作るなら。」と、1年生に鈴割をさせてくれたのです。木曜日に実施し、その模様をテレビ放送で全児童が視聴し、運動会への気持ちを高めました。1年生も嬉しそうでしたが、それよりももっと嬉しそうだったのは6年生でした。6年生の真心に感動しました。また、PTA役員を中心とした協力体制にも感動しました。入退場の整理や、見守りパトロール、後片付け等を積極的にお手伝いいただき、安全で滞りない運動会の運営を献身的に支えていただき、本当にありがとうございました。

今年度の運動会はコロナ禍の半日開催でしたが、子どもたち、保護者そして教職員の全員で力を出し合い、内容の大変充実した素晴らしい運動会となりました。皆様に心より感謝申し上げます。



くす玉の下で踊る1年生